

平成22年度 学校自己評価システムシート (県立羽生実業高等学校)

目指す学校像	社会に有為な産業人の育成 (専門的な知識・技術及び規範意識を身につけた、社会に貢献できる生徒を育てる)
重点目標	1 学力向上を目的とした授業の工夫・改善 2 専門的知識・技術の習得を促進する授業の工夫・改善 3 組織的・体系的な部活動の活性化 4 特色ある生徒の育成を促進する授業の工夫・改善 5 指導的・教育的な役割を担う教員の育成

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会開催日とする。学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	13名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した具体的方策、方策の評価指標を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価 (3月18日現在)			
年	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		
1	生徒は、チャイム着席の徹底等、授業態度は概ね良好であり、資格取得にも積極的に取り組んでいる。生徒の進路実現を図るため、学習をおとす生徒一人ひとりに、達成感や成就感を味わわせるとともに、学習意欲を高め、基礎学力を定着させる取り組みが求められている。	① 確かな基礎学力を定着させる学習活動の推進と生徒の学習意欲の向上 ② 学科の特質や生徒、保護者のニーズに応えるための教育課程の見直し ③ 資格取得者の増大	① 基礎学力の定着及び落ち着きのある学習環境や学習習慣を身に付けさせるため、「学び直しの朝学習」の開始 ① 授業改善のための公開授業週間、職員研修会の実施 ① 生徒に自主学習力を身に付けさせるための家庭学習の定着 ② 生徒、保護者、地域(企業)へのアンケート調査の実施 ② 新学習指導要領等に対応した教育課程の検討の開始 ③ 高度な資格取得のため、組織的な補習の実施 ③ 資格取得に意欲的に取り組む生徒の表彰	① 「学び直しの朝学習」の実施 ① 公開授業、研修会を各2回以上実施 ① 家庭学習実施生徒80%以上(生徒アンケートによる) ② ニーズを把握するための、アンケート調査の実施の有無 ② 教育課程の案作成 ③ 資格取得者の前年度比増 ③ 顕彰制度表彰者前年度比増	① 検討委員会を立ち上げ、先進校訪問を行い平成23年度「学び直しの朝学習」を実施予定。6月末に授業公開週間を1回実施。研修会は教科内研修のみ実施。一部の教科のみで宿題を課した結果、家庭学習を積極的に取り組んでいる割合は約35%であった。「(そう思う・ややそう思う)の計」。各教科では、基礎学力の定着に向け授業改善を図った。 ② 保護者アンケートの調査結果(「本校への要望等」)を踏まえ、現在目指す学校像の実現に向けた新教育課程を作成中である。 ③ 約7割の生徒が資格取得の目標達成に積極的に取り組んだ。今年度新たに、「秘書検定」の実施や「情報処理技術者試験」の合格者が増えるなど、資格取得の幅も拡大し、合格者数も前年度に比べ増加の予定である。	B	① 教材を精選し「学び直しの朝学習」を確実に推進するとともに、学習実態を調査・分析し、その内容を学校全体で共有し、生徒の学習意欲を向上させることが課題である。そのため、公開授業・職員研修会・授業評価が必要である。 ② 各調査を分析し、生徒の実態と学校の方向性を示す新教育課程であるかの検証が課題である。 ③ 1年次から、授業で資格取得の重要性を繰り返し説明するとともに、目標を設定させるなど、資格取得に向けた意欲を高める。また、繰り返し学習と時間をかけた粘り強い指導により、生徒に達成感を味わわせる。	実施日 23年 2月25日 学校関係者からの意見・要望 ・7割の生徒が資格取得の目標達成に向け、積極的に取り組んだり、また新たな資格への挑戦やその成果がでるなど、先生方の資格取得や学力向上に向けた取組は評価できる。 ・授業改善につなげるため、生徒による授業評価を取り入れてほしい。今後、高校生としての学力を身につけさせるため、授業改善に積極的に取り組んでもらいたい。 ・今後も、様々な工夫をして「分かる授業」に取り組んで欲しい。
2	農産物の販売(「夢実ガーデン羽実屋」)等、教育活動の成果を地域に還元するとともに、羽生市との連携事業にも積極的に取り組んでいる。創立90周年を超える商業・農業併設の伝統校として、中学生、保護者、地域住民に対して、本校の特色ある教育活動への理解を深めるとともに、「規律があり、元気で地域から評価される」学校づくりを推進することが求められている。	① 学校の特色ある教育活動情報の積極的な発信 ② 各評価活動を活用した教育活動の充実改善 ③ 地域関係機関との連携事業の推進	① H P の改善、羽実だより、県立学校ニュース、ポスター、学校案内等を活用した積極的な広報活動の推進 ① 中学生対象の体験入学、学校説明会、学習塾向けの説明会の実施 ② 生徒、保護者、学校評価懇話会委員(学校評議員)によるアンケート調査の実施と教育活動への反映 ② 学校評議員の学校行事、授業観察等の視察の実施 ③ 「出前授業」を行い、専門高校の特色等の積極的な中学生へのアピールを実施 ③ 小・中学生、地域住民対象の公開講座の継続の実施	① 羽実だよりの定期発行、H P の随時更新 ① 中学校対象の体験入学、学校説明会、学習塾向けの説明会、随時の学校見学会を年5回以上実施 ① 生徒募集用のポスター及びクリアファイルの作成・配布 ② アンケート調査の結果を、年内の教育活動に反映したかの有無 ② 学校評議員の複数回以上参加 ③ 市内3中学校での「出前授業」の実施 ③ 公開講座の参加者前年度比増	① 「羽実だより」は8回発行。H P の更新は90回。県立学校ニュースを活用するなど、マスコミ広報は計30回以上。体験入学(7月)、学校説明会(10、11、12月)、学校見学会(1月)、懇話会(10月)を実施。ポスターやクリアファイルを作成し、生徒募集に有効活用するなど、様々な手段を講じて、学校情報を積極的に発信した。 ② アンケートについては、生徒・保護者・教職員の学校評価(1月)の他、1年生(6月)、保護者(6月)、学校評議員(6月)を実施。保護者アンケートは、12月のPTA支部会で結果を周知した。学校評議員には、学校行事(授業公開、文化祭、体育祭等)に参加を依頼し、教育活動を評価してもらった。 ③ 当初予定した羽生市3中学校の他、中学校の依頼に応え、加須市3校、行田市1校において「出前授業」を実施した。全ての学校で好評だった。また、農業では小中学生及び市民を対象に16分町の「農業カルチャー講座」を開催し、合計152名(前年比50名増)が参加した。商業では、初めて小学生向け「そらばん教室」を実施し、計31名が参加した。講座数、参加者数とも前年度に比べ増加した。	A	① 学校説明会や体験入学を2回以上実施、H P の内容充実を図ることにより、より一層中学生や保護者に専門高校への理解を深めてもらう必要がある。 ② 各アンケート調査の項目を精選するとともに、位置づけを明確にするなど、学校改善に生かすための適切な仕組みづくりが必要である。 ③ 今後も専門高校の魅力や特色を積極的に発信していく必要がある。「出前授業」については、参加者増に向け、小中学校へのチラシ配布やポスター掲示などの周知徹底が課題である。	・羽実だよりやマスコミ広報など、学校の理解の促進に向けた積極的な広報活動は大変評価できる。市の広報課や公共スペースを活用して、より効果的な情報発信をしてもらいたい。 ・体育祭、羽実祭などの学校行事に生徒は積極的に取り組んでおり、保護者として大変感謝している。また、今年度からPTA役員を中心に体育祭の種目参加させてもらった。PTAも学校に協力したいので、来年度も続けて欲しい。 ・専門高校は将来に役立つ実学を学ぶところ。本校でもそのための教育を行っている。H P など、この点についても、もっと情報発信してほしい。
3	定期的な登校指導や校内巡回指導など、学校全体が一体となった組織的な生徒指導の推進によって、生徒の基本的学習習慣は着実に向上している。しかし、「社会に有為な産業人の育成」のためには、規範意識を身に付けた生徒の育成が不可欠である。そのため、「フレッシュ高校生社会体験プログラム事業」を活用し、社会性を身に付けさせ、目的意識の高い生徒を育成することが求められている。	① 全教職員による組織的、積極的な生徒指導の推進 ② 中途退学者の減少	① 生徒指導に関する情報について逐次共通理解を図る職員研修会の実施 ① 全教職員による、輪番制による、登校指導および昼休みの巡回指導の実施 ① 下校指導・添乗指導の実施 ① 交通ルール遵守の指導の実施(傘さし、二人乗り、並列走行等) ② 外部講師による講演会の実施 ② 全校生徒への継続的な生徒指導の実施 ② 1年生全員によるインターンシップの充実	① 特別指導件数の前年度比減 ① 職員研修会を2回以上実施 ① 登校指導、巡回指導の実施 ① 校外生徒指導の年間実施 ① カップ着用率の上昇、二人乗り並列走行の減少 ② 中途退学者の前年度比減 ② 重大な特別指導対象者への継続指導及び効果の検証 ② 講演会を2回以上実施 ② 意欲的参加者80%以上	① 毎朝の校門指導や2学期の「昼休み巡回」など、積極的な生徒指導を行った結果、特別指導件数は前年度比10%減。職員研修会は9月に、「在り方生き方教育の指導法」をテーマに実施。校外生徒指導は、警察と連携し月3回程度実施。交通安全防止については、12月に県教育委員会の指定を受け「スクエアド・ストリート教育技法」の交通安全教室を実施した。雨合羽の着用率調査は、今後実施予定である。 ② 1年生全員参加のインターンシップでは、生徒の約8割が充実していたと回答するなど、多大な成果があった。中途退学者数は前年度比1名減(2/4現在)。また、各学年の定期的な登校指導や遅刻指導により、規範意識を醸成した。また、薬物乱用防止教室や非行防止教室を実施し、問題行動の未然防止を図るとともに、著名人の講演会を実施し、在り方生き方教育を行った。	B	① 生徒指導部を中心に、学年毎の生徒指導体制を強化し、生徒の規範意識を向上させることが課題である。そのため、学年会議を定例化するなど、足並みの揃った生徒指導を推進する必要がある。 ② 受入事業所の新規開拓やその連携強化など、より一層インターンシップの充実を図る必要がある。また、1年次のインターンシップ成果を2、3年次につなげることが課題である。また、教育(個別)相談の実施を送り、目的をもった高校生活を送らせることが課題である。	・年々、服装髪型など、生徒の整容はよくなってきている。先生方がまとまってきた感じが感じられる。 ・生徒の意識を高めるため、「チェックリスト」(生徒の努力目標)のようなものを作り、厳しい指導に加え、高校生としての責任を持たせるような指導を行って欲しい。 ・整容指導の際、スカートなどその場しのぎの生徒が多い。徹底して指導して欲しい。 ・人生において失敗は糧になるが、取り返しの付かない失敗は人生そのものをだめにしてしまう。法の下で平等なのであるから、学校で違法精神について、きちんと教えてほしい。
4	厳しい雇用情勢の中、系統的できめ細かな進路指導の徹底によって、進学を含め高い進路決定率を誇っている。また、昨年度から始まった、1年生全員参加のインターンシップについても、早期の進路意識高揚につながっている。地域産業の担い手として期待の高い専門高校としては、一層の計画的・組織的な進路指導によって、進路実現を徹底することが求められている。	① 生徒の将来を展望した進路意識の醸成 ② 進路希望に基づく就職者及び進学者全員の進路実現	① 生徒一人ひとりの進路意識を高める進路相談、面接指導、個人面接の実施 ① インターンシップの事前、事後指導の充実 ② 企業開拓(会社訪問)を積極的に実施 ② 取得した資格を生かした進学者の増加	① 進路相談、面接指導、個人面接の実施 ① インターンシップ依頼先からの適切な評価結果 ② 3年生の進路決定率の前年度比増 ② 学科教育内容に関連した就職先への就職者の前年度比増と上級学校への進学者の前年度比増	① 各学年の進路目標に応じたガイダンスを計画通り実施し、将来を展望した進路意識を醸成した。保護者には、5月の「PTA総会」時、11月には2年生修学旅行説明会時に合わせて「進路説明会」を実施するとともに、3月の進路講話にも参加を呼びかける予定である。インターンシップの受入事業所からのアンケートでは、生徒の取り組み態度については好評評価が7割だった。 ② 進路決定率は、89.1%(3月10日現在)。就職内定状況は、93.4%(同現在)で昨年同様に11.9%増加。厳しい社会雇用情勢の中、最後まで粘り強く指導を継続している。四年制大学への進学者は24名で前年度比2名増(同現在)。	B	① 求人増加に繋がるよう企業訪問を工夫するとともに、生徒アンケートを分析し、さらに有効な進路行事になるよう改善する必要がある。また、今後も渉外部等、学校行事と連携し保護者にも進路意識啓発の機会を設けていく必要がある。 ② 就職試験の合格率(特に、一度目の試験に合格させるため)を向上させるため、より一層、3年間を見通した計画的な基礎学力やコミュニケーション能力定着の取組が必要である。	・大変厳しい中、比較的高い就職内定状況であり、生徒は粘り強く進路実現に取り組んでいる。 ・2年生になっても、1年生のインターンシップの経験が生きている。もう一度行きたいと思っているので、機会を作って欲しい。 ・今年15人採用したが、元気な子、身支度のしっかりした子、ネクタイやリボンをきちんとしている子を採用した。学校での指導をお願いしたい。
5	一年生の部活動加入率が増加するなど、昨年度と比べ、各部活動において活性化の傾向がある。また、成績面では、関東大会、全国大会への出場も可能なレベルに達した部活動もある。高校生活を充実させ心身ともに健康で、何事にも意欲的に取り組む生徒を育成するため、部活動のより一層の活性化が求められている。	① 部活動の更なる活性化の実現 ② リーダ的人材の育成	① ノー会議デーの設定 ① 各種委員会組織の再編見直し ① H P や羽実だよりにおいて、部活動の積極的な情報発信(毎回掲載) ① 部活動加入率を増加 ② 小・中学生への技術指導等の実施 ② 体育的行事等で「部活対抗」の競走を実施	① ノー会議デーの検証(臨時会議の実施有無) ① 関東大会、全国大会への出場 ① 顧問の負担が軽減され、指導回数が増加 ① H P や羽実だよりによる、十分な情報発信(毎回掲載) ① 加入率前年度比増 ② 地元、小・中学校への指導有無 ② 対抗競技等の実施の有無	① 陸上競技部(2名)、農業クラブ(1名)が関東大会出場、コンピュータ部(1名)、農業クラブ(5名)が全国大会出場。また、火曜日「ノー会議デー」と定め、部活動等推進の体制を作った。羽実だよりやH P にて、進路達成を報告した。 ② 3/8(火)岩瀬小学校において、「陸上教室」を実施。また、各実行委員会を中心に、学校の特色を生かし体育祭や文化祭が盛大に実施されるなど、生徒の自主的・意欲的な活動が増えた。	B	① 部活動を活性化するため、会議等を精選し、部活動指導時間の確保が課題である。 ② 生徒会や部活動内における役割分担を明確にし、生徒が自覚を持ち、自主的・意欲的に活動できる環境づくりが課題である。	・PTAとして、部活動の記録が増えるのは嬉しい。部活は友達ができ、人間関係も学べる。今後も活性化して欲しい。 ・結果が出ている部活は指導者が良い。子供たちに何が必要か、指導者を配置して欲しい。 ・学校農業クラブの活動を活性化させたい。学校の中だけでなく、地域に出て、例えば、出前授業のようなものをやりたいと考えている。学校でも協力してほしい。